



浅口市立鴨方西小学校

かもにしNOW

(文責 校長：三浦 嘉子)

R5. 1. 27



【戦争・原爆について考える(1月24日・6年生)】

6年生は、今、社会科の学習で歴史について学んでいます。3学期は特に昭和以降の戦争について学習してきました。第二次世界大戦を教科書で学んだ後、1月24日は、戦争・原爆の悲惨さを語り部として伝え続ける団体「岡山の会」の4人の先生をお招きして、平和に関する授業をしていただきました。



【岡山空襲／子どもの詩「原爆の思い出」の朗読を真剣に聴き入る6年生の姿】



【紙芝居「あざみの花」を聴く6年生】

教科書で戦争を学んではいたものの、「岡山の会」の先生方の言葉は、あまりにリアルで、重みをもって子どもたちの心に染み渡りました。子どもたちの感想は、以下の通りです。

<子どもたちの感想(抜粋)>

- ・紙芝居を聴いていたら、そんなかわいそうなことがあったんだとわかりました。原爆が落ちた時にこんなことが起こっていたとは知りませんでした。
- ・学校で習ったよりもより深くわかりやすく説明してくださったおかげで、原爆の恐ろしさ、二度とこのようなことをして、人を苦しませたり、悲しませたりしてはいけないと、深く考えさせられました。
- ・今も原爆症と戦っている人がいるとおっしゃっていたので、原爆はすごくおそろしいんだなと思いました。日本が今よりもっと良くなるためにはどうすべきかなど色々と考えてみようと思います。



【授業が終わっても教室を出ない6年生】

授業終了のチャイムが鳴っても、子どもたちは誰も教室を出て行こうとせず、もう少しお話を伺いたいと、「岡山の会」の先生の周りに集まっていきました。

この授業で感じたこと、考えたことを忘れずに、「戦争は絶対にやってはだめ!」という事を継承して行ってほしいと思います。

「岡山の会」の先生方、貴重な機会を頂戴し、有り難うございました。コロナ禍で、出前教育が制限されていたため、久しぶりの学校訪問だったとの事、誠に有り難うございました。